# 里山再生のための新たな取り組み

サヘルの森運営委員（農業技術者）
榎本　肇

---

8 月 7 日に日本を発ち、約 2 ヶ月半マリで活動をしてきます。

今年は雨期に入ってもなかなか雨が降らず、6 月後半になってやっとまとまった雨が降り、村人たちは主食の穀物作付けに忙しいようです。私の到着する 8 月には、村人たちは除草作業に日々いそしんでいます。
除草が終われば一息入れられ、後は 10〜11 月の収穫を待つだけです。

会の活動は、これまでアフリカの「里山」再生を目指して、村人個人による小さな林づくりとして、苗木を配布し、個人の敷地や菜園、畑や休耕畑等に植えてもらってきました。また、試験地では荒廃地における水や有機物の循環を促すような植林技術の開発をしています。
今回は、苗木配布やこれまでの配布苗の生育状況の確認、試験地・見本林の管理などの他に、新たな取り組みを行ってきます。

これまでの活動を一歩進め、薪炭材を切り出す疲弊した潅木林（「里山」）を再生するために、10 名ほどの篤農家と共に里山再生の実践を行います。
まず、里山の先駆的な利用をしている地域苗畑で、里山再生するための育苗・植林技術を学び、里山再生の将来像イメージする研修を行います。その後村に帰り、それぞれの所有地（占有地）の潅木林内に、長径 2m くらいの柵を作り、その中で育苗、植林を行います。育苗のために水やりをすることで、もともと生えている既存の潅木の生育を促します。1 ヶ月ほど育苗した後、柵を別の場所に移動し、そこで同様に、育苗、植林します。これを繰り返すことで、疲弊した「里山」の既存樹を護りながら、新しい木を育てていきます。
こうした里山再生の実践が、地域の里山再生の手本となり、刺激になることを期待しています。